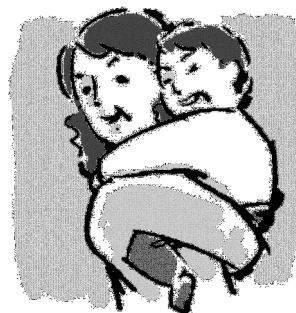


今月のテーマ

親の子、子の親



え・城谷俊也

過去と未来をつなぐ橋渡しを

● 月に新入社員として入社した人の中には、初任給で、

社会人としての親孝行に取り組んだ人もいます。

転職情報サイトのDODAデ

ューダが、二十代の会社員を対象に行なったアンケート調査では社会人になってから親孝行をしましたか?という質問に、65%の人が「した」と回答しました。

内容はプレゼントが主たるものでバッグや定期入れ、旅行、選べるギフトなどが挙げられています。

「孝行」という言葉を辞書で引くと、予として親を大切にすること。また、そのさま」とあります。

親を大切にすることとは、様々な事柄があてはまるでしょう。プレゼントを通して感謝の気持ちを伝えることもその一つです。親の立場からみると、自分より先に死なない「結婚して孫を見せること」などもあります。

また、すでに親を亡くしている人にとっては、お墓参りをしたり、仏壇を掃除することなどを通じて親に思いを馳せることも孝行とい

えるでしょう。

修養団の伊勢道場長などを務めた教育評論家の中山靖雄さんは、著書『すべては今のためにあったこと』海竜社で、あるご婦人のエピソードを紹介しています。

母の日のこと。あるご婦人が、お母さんはもう亡くなって親孝行もできない。せめてお墓の掃除でも行こう」と思い立ちました。

出かけようとする、高校生の娘が一緒にいて来てくれました。家に戻って夕食後、お風呂に入っていると、後から娘も入ってきました。お母さん、タオルとシャボンを買って」と言いつつ、背中を流してくれたのです。何あなた、あまり変わったことしないですよ」と言うと、娘が「生き仏の墓掃除よ。死んでからはこんな温かい墓石、流せないもんね」と言いながら、背中を流してくれたのです。

婦人は顔を洗いながら、こみ上げる涙を隠すのが精一杯でした。親を大切にしたい」という思いを行動に表わしたお墓掃除は、同時に、娘にもその思いが通じた

ことを物語っています。親祖先を敬う心は、自然に子孫へと伝わっていくようです。

祖先は過去であり、子孫は未来である。その過去と未来をつなぐ中間に

現在があり、現在は現実の親子によって表わされる。親は将来の祖先であり、子は将来の子孫の出発点である。だから子の親に対する関係は、子孫の祖先に対する関係でもある。『沈黙の宗教―儒教』加地伸行著 筑摩書房

祖先という過去と、子孫という

未来をつなぐ橋渡しは、現在を生きている私たちに課せられた役割ではないでしょうか。連綿と続く「のち」をどのように子孫へつ

なげるかは、今を生きる本人次第です。

もし、自分の子供に対して「親不孝者だ」と感じているなら、まずは自分自身が親祖先に向けて、どのような孝行をしてきたかを振り返るべきでしょう。

過去と未来をつなぐ橋渡し役である私たちは、その流れを留めることなく、親祖先を大切にすることを子孫に伝えていきたいものです。